

支援の目標

①現在の状況（実態）

①-1 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について4つの柱に即して情報収集

生活	障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について『各学部の4つの柱～観点と内容～』に即して情報収集 ※年度末に必要なに応じて加筆・訂正（1年間の児童生徒の変容が分かり、次年度に引き継ぐため）	生活全般にわたって、できることや苦手なこと・課題等の全体像を記入。 【遊び】【社会性】の観点も積極的に記入する。 余暇のこと、金銭のこと、公共施設・交通の利用に関すること等	※1ページ目の全項目で42行以内 ~16行程度
からだ：心と体			
学力：資質・能力			
人との関わり			
検査より	外部の専門家による検査結果と検査時の様子等を記入。 検査名、実施日、実施機関を記載。	~3行程度	

①-2 収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
学校教育目標の4つの柱で分けた実態を自立活動の6区分に即して整理 ※実態把握チェックシート等を活用して情報収集する。 学習上又は生活上の難しさだけでなく、すでにできていること、支援があればできることも記載。 ◆ <u>学習上又は生活上の困難やこれまでの学習状況の視点に当てはまるものに下線を引く。</u>					~19行程度

②配慮事項

*一年間にあった身体面の情報を記入する。(引継ぎ資料となり、来年度すぐに対応可能) ・発作の状況 ※緊急時対応をした場合、記録する。記入例)○月○日 てんかん発作 座薬使用・食事に関するアレルギー・投薬の状況・その他、身体の状態で特に記す必要がある事項 等	~4行程度
---	-------

④指導目標（長期）					
上記の実態を踏まえて、1年間の自立活動の目標を記入。連絡簿にも記載 ◆抽出指導をしている場合は、関連する目標に(抽出)と記入。 ※目標を設定のポイント:目標は具体的かどうか・評価が可能かどうか・肯定的な目標かどうか					～4行程度
上記を達成するために必要な項目の選定					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
学習指導要領の解説書を参考にして自立活動の6区分27項目の中から選定する。				プルダウンで選択 同じ区分の中で複数の項目を選定している場合は、セルをコピーし、挿入	
⑤選定した項目を関連付け 具体的な指導内容・学習の支援を設定					
	短期目標	指導内容・選定項目	支援・主な指導時間	学習の状況・記録・評価	
前期	主語が子どもで記入。	上段で選定したどの項目同士を合わせたのかが分かるように()に選定した項目の番号を記入。 (例4-①)→環境の把握 ①	【 】の中に主に指導する授業名等や場面を記入。【自立活動の時間、休み時間、パニックになった時】等も含む。	連絡簿の「学校から家庭へ」に前期・後期それぞれの学習の状況・記録・評価を記入 ※「学校から家庭へ」欄には、その他保護者に伝えたい内容は今まで通り記入	
後期	具体的な指導内容を設定する上でのポイント ・主体的に取り組む指導内容 ・改善・克服の意欲を喚起する指導内容 ・発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容 ・自ら環境を整える指導内容 ・自己選択・自己決定を促す指導内容 ・自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容			各学期 ～10行程度	
学校の教育活動で行われる全ての自立活動の指導について記入（※様式3には、記入なし）					
⑥指導目標（長期）に対する考察					
※2ページ目の全項目で(長期目標を達成するための項目選定を除く)33行以内					～4行程度
個別の指導計画～自立活動～の作成にあたって:個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にし、指導目標や指導内容を定めていく。実態から明らかになった課題の原因や背景を分析し、具体的にどのような力をつけていくことが児童生徒の自立と社会参加に繋がるのかを考える。					

支援の目標

- ・困ったことに直面した時に他者（大人）に援助を求めることができる。

①現在の状況（実態）	
①-1 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について4つの柱に即して情報収集	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣はほぼ自立している。 ・気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。 ・常に千円を出して買い物をしたり、時計は読めるが「～分後」は分からず、何度も確認したりする。
からだ： 心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで、進んで体を動かしている。 ・聴覚から情報を得ることは苦手である。 ・視覚から情報をとらえて理解することは得意で、活動予定を一枚に提示すると見通しをもって学習に取り組める。 ・エプロンの紐を結ぶことができるようになる等、手指の巧緻性が身に付いてきている。
学力： 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名、日常でよく使われている漢字（小1程度）の読み書きや簡単な文章を読める。 ・3桁の加法減法は筆算で計算できる。九九もほとんど暗記している。 ・文章問題は苦手である。また、初めての問題や分からない問題があると、「分からん」と言って鉛筆を投げることもある。
人との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・険しい表情・口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。 ・一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。 ・困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身についていない。 ・感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。 ・他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
検査より	<p>新版K式検査（R5.3.1 ○○児童センター実施）：P-M3.10、C-A6.8、L-S7、全領域6.10</p> <p>意欲的に課題に取り組むことができた。「絵の叙述」では名詞の名称は理解しているが、文章で説明するのが難しかった。「5以下の加算」ではあまり考えずに即答し間違えることが多かった。</p>

①-2 収集した情報を自立活動の区分に即して整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣はほぼ自立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かなくなった時に、<u>自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。</u> ・常に千円を出して買い物をしたり、時計は読めるが「～分後」は分からず何度も確認したりする。 ・活動予定を一枚に提示すると見通しをもって学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・険しい表情・口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。 ・<u>一方的に話してしまふことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。</u> ・他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚から情報を得ることは<u>苦手である。</u> ・視覚から情報をとらえて理解することは得意である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで、進んで体を動かしている。 ・手指の巧緻性が徐々に身に付いてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身についていない。</u> ・感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。

②配慮事項

③指導目標（長期）

・一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。

上記を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。
		(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。			

④選定した項目を関連付け 具体的な指導内容・学習の支援を設定

	短期目標	指導内容・選定項目	支援・主な指導時間	学習の状況・記録・評価
前期	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見が相手に伝わるように話す。 気持ちが不安定になったり、イライラしたりする時に自分の気持ちを切り替えることができる機会を増やす。 相手とやりとりをしながら話す。 	発表する前に話すことをメモに整理し、メモを見ながら話す。4-②6-① ・気持ちが落ち着かないときに、ヘルプカードを使い、担任に援助を求める。2-①3-③ 台本を見ながら、担任と交互に台詞を言う。3-②6-⑤	<ul style="list-style-type: none"> いつ、誰が、どこで、どうした等の項目のあるメモ用紙を使う。【国語科・特別活動・自立活動】 ヘルプカードを机の横にかけておく。【学校生活全般】 台本の自分の台詞にマーカーで色付けする。【自立活動の時間】	<ul style="list-style-type: none"> メモを使うことで話す内容が整理でき、大きな声で発表できるようになった。しかし、メモを書くことに時間がかかってしまう。 ヘルプカードを上手に使える時と使えずに感情が高ぶってしまうことがある。上手く使えた時は気持ちを落ち着かせることができた。 台本を使うと自分の話す順番がわかるので、担任とのやりとりができた。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 短時間でメモを書き、気持ちを相手に伝わるように話す。 気持ちが不安定になったり、イライラしたりする時に自分の気持ちを伝える。 相手の意見を聞いて、やりとりしながら話す。 	様々な場面で自分の気持ちをメモに整理して話す。4-②6-① 気持ちが落ち着かないときに、ヘルプカードや言葉で担任に援助を求める。2-①3-③ お話リレーの教材を使用して担任や友達と交互で意見を言う。その時にメモに整理しながら話す。3-②6-⑤	<ul style="list-style-type: none"> タイムタイマーや時計等で時間を意識して取り組む。【国語科・特別活動・自立活動、休憩時間】 ヘルプカードを見やすい位置に提示するとともに、言葉で援助を求めるのを待つ。【学校生活全般】 ・視覚的に誰が話しているかを示すとともに、メモ用紙を使用する。【自立活動の時間】	<ul style="list-style-type: none"> タイムタイマーや時計でも時間を意識でき、書く時間も少しずつ早くなっている。メモを活用して気持ちを伝えることができた。 ヘルプカードを見やすい位置に提示することで上手に使える機会が増え、気持ちが不安定になったり、イライラしたりすることが少なくなり、気持ちを伝えられるようになった。しかし、言葉で援助を求める機会は少ない。 視覚的に誰が話しているか示すことでスムーズにやりとりを行うことができた。またメモを使用することで相手にわかりやすく伝えることができた。

⑤指導目標（長期）に対する考察

ヘルプカードを使用して援助が上手く求められるようになることで気持ちが落ち着き、相手の意見を聞こうとする態度が身についてきた。またメモを使用することで話す内容が整理でき、教師や友達とのやりとりを通して自分の考えが相手に伝わる経験を積み重ねられたことで自信にも繋がった。